



No. 87

平成13年度 第23回
全国移動図書館・協力事業研究集会岡山大会
 開催される 図書館の連携・協力を考える

運営にあたった。
 一日目は、開会行事に引き続いて、糸賀雅児慶應義塾大学教授による基調講演、「二つの分科会「より身近」な移動図書館、より便利」な図書館

平成十三年十月
 四・五日、日本図書館協会公共図書館部会と岡山県図書館協会の主催で、標記研究集会が開催された。全国から二百十名を越える参加者が、まきび会館に集った。

この研究集会は二年おきに各地で開催されており、今回は神奈川県での大会であった。岡山大会では、県図書館協会の公共図書館が中心となり、実行委員会を組織し、準備と当日の



開会式

を目指す協力事業をテーマに各々三件ずつの事例発表、続いて分科会報告と討議を行った。

糸賀氏は基調講演で、近未来の図書館像として地域電子図書館の可能性を示された。地域電子図書館とは紙媒体による資料・情報と電子化された資料・情報とを有機的に連携させた混合型図書館で、ハイブリッド・ライブラリと呼ばれる。この図書

館では、地域と施設を越えた様々なサービス(広域利用、相互貸借、協力レファレンス、大学・学校との連携、職員の研修・交流など)が考えられる。移動図書館は、地域に根ざした図書館として、地域電子図書館と相互補完的な存在として両立していくであろう、と講演された。

二日目は、「二十一世紀を迎えた今、協力事業の未来を展望する」をテーマにシンポジウムを開催。横山桂氏(日本図書館協会事務局長)、糸賀雅児氏、児玉史子氏(国立国会図書館国内協力課長)、渡部秀人氏(早稲田立図書館長)の四人をパネラーとして、「目録情報提供の在り方」(岡山県、市町村図書館間での連携・協力の充実)等について討議した。図書館界に起きている変革を実感するとともに、図書館を身近にしていく地道な活動の重要性が見直された研究集会となった。



基調講演：慶應義塾大学教授
 糸賀雅児氏

第一分科会に参加して

濱野 聡

第一分科会は「より身近」な移動図書館ということで、鳥取県大栄町立図書館の妻由静代氏と山口県岩国市立中央図書館の野村恵子氏と萩山教育事務組合立図書館室の入澤泰良氏の三人の事例が発表された。

三人の発表とも、移動図書館を生かした図書館全体の利用増への努力が感じられた。

大栄町では平日だけでなく日曜日も巡回することによって、よりきめの細かいサービスをおこない、図書館で行き届かない部分への補完の役割を果たしている。

若国市では、B M専任の司書は一人しかいないが、他の担当者を巡回コースごとの担当に固定し運行日誌をつけさせて情報交換をし、サービスの充実を図っている。

萩山では今後の活動方針として、十人以上の会議等で要請があれば、可能な限り巡回するという積極的な方針を出していた。

昨今、よくいわれる効率性という面からみれば非効率かもしれないが、「より身近」な移動図書館として地域住民の立場に立ったサービスの大切さを再確認させられた。

(はまの さとし：岡山市立中央図書館)

第二分科会に参加して

有元 康子

十月四日に行われた第二分科会では『より便利』な図書館を目指す協力事業』ということで岡山県総合文化センター、諏訪市図書館より三人の方の事例発表がありました。

まずは全国の公共図書館の相互貸借の現状が図書館へのアンケート調査結果をもとに資料の搬送の仕方・頻度等、総合目録事業について詳しく報告されました。次の諏訪広域図書館ネットワークシステムは、六市町村図書館の総合目録を第三セクターのセンター館で管理し、インターネットで検索・予約も可能で、さら



第二分科会：森山光良氏

に貸借資料の速やかな搬送を実現されており、自治体を越えた利用増をもたらしおられました。最後に岡山県について公立図書館ネットワーク、デジタル岡山大百科、横断検索など実現しつつある近未来の岡山の図書館の協力事業像が示されました。近頃はインターネットの普及により、資料の所蔵情報・予約などは個人利用者でも容易になってきました。しかし物流の遅さがどこでもネックになっていきます。利用者いかに早くのサービスを保ちつつ、できれば手間・費用をかけず効率良くやっていけるのか、これらの事例発表を聞きながら課題であるなど改めて感じました。(ありもと やすこ:勝北町図書館)

シンポジウムを聞いて

有元 正雄

ここ三、四年のコンピュータ関係、特にインターネット関係の変化は本当にめざましい。パネラー諸氏の話も聞いても、もはや図書館はインターネット抜きには考えられない時代、電子武装なくして図書館の未来はないような感さえいだかされる。津山市立図書館も平成十三年四月からホームページを立ち上げ、利用案内や蔵書検索をWEB上に提供している。しかし、蔵書の問い合わせの電話や開館しているかどうか問い合わせる市民の電話は後を絶た



シンポジウムパネラーの面々
左からコーディネーター：菱川広光氏
パネラー：糸賀雅児氏、横山桂氏、渡部秀人氏、児玉史子氏

ない。私自信が携帯電話もインターネットも利用していないせいか、世間でいわれるほど一般家庭に普及しているか疑問に思う瞬間である。市役所内部でも各課のIT化は進みつつあるが市民サービスとして定着しつつあるのか表面的にはわかりにくい。技術の進歩と新たに生まれつつある情報弱者予備軍。市役所でよく言われる費用対効果や業務効率、さらには計画性、将来性を考えるとき現在の重要施策としてのIT化の先に何があるか誰か解答を持っているのだろうか。ある講演で近い将来の家庭像として完全IT化された家庭の話聞いたが、振り返って周りを

みると未だに下水道工事の道路渋滞が絶えない現実がある。

IT時代の図書館の具体像は明確に描けず、直接的な市民サービスとしてはまだまだ試行段階といった感があるものの、協力事業については確かに強力なツールになってきている。以前の所蔵館探しにかけていた労力と不確かさを考えると、限られた参加館であつても今では横断検索や各館提供のOPACが利用でき、市民サービスの向上に役立っていることは間違いない。

シンポジウムでも図書館の地域や館種、施設を越えた連携・協力の必要性が強調されていたが、「水道の蛇口」をひねるように地域の図書館から情報が得られる時代に一歩近づいてきたのかも知れない。

WEB時代を迎えても、図書館は本があること、本を市民に提供することがまず基本なのは変わらない。相互協力も各図書館の自立の上に成り立つもので、相互依存とは違う。その原則にも変わりはない。職員は臆することなく新しい技術の習得に励み、そこからまたサービスの形を生みだしていくこともまた必要ではないか。シンポジウムを聞きながら時代の激しい流れを感じずにはいられなかった。

(ありもと まさお:津山市立図書館長)

ブックスタート、始まっています

岡山県内の活動を中心に

稲葉三千代

ブックスタートは、本を介して親子が心と肌とふれ合わせ楽しい時間を共有してほしいという願いから、一九九二年にイギリスのパーミンガムで始まった運動です。具体的にはほとんどの乳幼児が集まる乳幼児健診を会場として、年齢に合った絵本をおすすめ絵本リスト、赤ちゃんと本を読むときのアドバイス集（イラスト中心）、地域の図書館や育児支援組織の案内などが布製の手提げ袋に入ったブックスタート・バックを、説明の言葉とともにすべての親子に手渡すという方法をとっています。ブックスタート・バックを手渡すのはその地域の図書館員や保健婦おはなし会のボランティアたちで、

単なるおみやげにならないよう、必ず一人一人にメッセージを伝えます。イギリスではこの運動が約二百の地域に広まっており、民族や言語、障害などに対応しながら実施されているとのこと。

日本では、二〇〇〇年十一月に東京都杉並区で初めて実施されました。これに携わった「子ども読書年」推進会議が母体となり、翌年四月、ブ



津山市ブックスタート実行委員会発行

ックスタート支援センターが設立され、十月には実施市町村が約三十となるなど、ブックスタートの輪は全国に広がりがつつあります。

県内では二〇〇一年五月に西栗倉

村が初めて実施しました。職員二人とボランティア二人で、ブックスタート・バックを手渡しています（写真①）。西栗倉村の大きな特徴は、対象が〇、一歳半、二、三歳児となっており、三歳になるまで継続して絵本を贈るといふ点です。ブックスタート・バックの内容は、前述のもののほかによだれかけ（〇歳児のみ）などが入っており、単価は一、



写真① ブックスタート・バックを手渡し（西栗倉村）

三〇〇〜一、七〇〇円です（写真②）。年に四回実施され、毎回十人前後が対象となります。読み聞かせや絵本の展示などで楽しんでもらえるよう工夫しており（写真③）、理解が深まりつつあります。実施時の留意点は、健診の邪魔にならないこと、保護者にも楽しんでもらうこと、スタッフはまず子守りに徹するため、保



写真② ブックスタート・バックの中は...（西栗倉村）

護者と保健婦は安心して話ができます。大切なのは、それぞれの立場の人たちが共通の理解と目的を持って行うということのようです。

邑久町は六月に開始しました。偶数月に、二十〜三十人の四〜五カ月児とその保護者に対して、公民館職員二人と保育士一人が、ブックスタート・バック単価約一、三〇〇円）を手渡し、説明しています。



写真③ 健診は絵本がいっぱい(西粟倉村)

津山市は九月から、三丁四カ月児童健診時に開始しました。月二回実施、年間九五〇人が対象で、一回につき四十〜五十人の乳児が参加します。図書館員らが手渡すものは独自に作成した絵本リスト(五十冊)や図書館の利用案内などで、これらが封筒に入っています。リストの本は会場にも図書館にも展示し、継続して利用されるよう工夫しています。これ

をきっかけに図書館へ足を運ぶ親子の姿も見られるようになりました。

以上、県内三市町村の取り組みをご紹介します。ブックスタートの成果は直ちに数字に表れるようなものではありませんが、バーミンガム大学の追跡調査では、子どもの心の発達に落ち着きが見られる、親子関係が安定するなどの効果が報告されており、さまざまな問題を抱える現代において非常に大切な働きかけであることは間違いありません。いずれの自治体の担当のかたも大変熱心に取り組んでおられたのが、とても印象的でした。

(貴重なお話を聞かせてくださった担当者の皆様、どうもありがとうございました。)

(いなば みちよ)

岡山県総合文化センター)

【お知らせ】

平成十四年二月七日に開催される「第一回ブックスタート全国大会」(主催/ブックスタート支援センター)において、西粟倉村のブックスタート事業が事例報告されます。詳細はブックスタート支援センターのホームページを御覧ください。
http://www.bookstart.net

岡山県図書館協会ホームページ開設について

平成十四年一月より岡山県図書館協会HPを開設いたしました。

TOPの図「県内の市町村立図書館設置状況」では図書館の設置されている市町村・設置予定の市町村を色づけして設置状況を一目でわかるようにしてあります。

この画面の次の詳細画面で各市町村の名前をクリックすれば各市町村

図書館のHPへ行けるようにリンクを張っております。

コンテンツについては現在のところ「お知らせ」「行事予定」「会則等」「加盟館一覧」「県内図書館調査」「関係機関リンク集」などオーソドックスなものができあがっています。日ごろの情報確認や他の機関との連絡などに活用ください。

今後は五十周年を期に、「協会のおゆみ」「相互協力ハンドブック」などのコンテンツも充実させていきたいと思っております。

また、協会の会報「岡山のとしょかん」の記事索引も作成中です。

会員のみなさまのお役に立てるようなHPにしていきたいと思っております。

HPに対するご要望・ご意見、情報などがありませんら、事務局までお寄せください。(作成担当…企画委員会)

<http://isweb30.infoseek.co.jp/school/okakento/>

岡山県図書館協会

県内の市町村立図書館設置状況



◎は図書館あり、○は図書館予定あり、□は図書館なし。市町村の名称は省略されています。

事務局：岡山県総合文化センター 書庫部
〒705-8235 岡山府岡尾曲3-2-2
電話(FAX)：086-270-2671
E-mail: busnas@pref.okayama.jp

岡山県図書館協会
設立：1971年11月

- お知らせ (news)
- 行事予定
- 会則
- 会費のご案内
- 加盟館一覧
- 県内図書館調査 (Wordファイル)
- 相互協力ハンドブック
- 岡山のとしょかん
- 関係機関リンク集

●事務局

会員の声

研修会に参加して

上岡 直子

岡山県図書館協会の研修会へ私が初めて出席させて頂いたのは、国際子ども読書年の頃だったと思う。当時(今も変わらないが)、子どもの将来を悲観せざるをえない事件が次々と発生し、行き場を失った子ども達の悲鳴が聞こえてくるようで、この年を機に、不慣れではあっても、自分のできることに全て試みようとしたのを覚えている。

その後、周囲の方々に勧められるまま、引き続き受講し、現在に至っている。県図協の催しの一つ一つは、綿密な年間計画に基づいて企画されていて、いずれも水準が高く、信頼できて心地よかつた。(その手法上の堅苦しさはやむをえないとして)殊に私が心惹かれたのは、その活動の底流を貫いている「ライブラリアンの魂」とでも呼びたくなるような精神性であった。それは戦後から今日まで、

人々の心から心へ脈々と受け継がれてきたものであり、その源流を遡れば、空襲で城と市街地の大半を失い、焦土に立って、あるべき祖国の明日を希求した岡山の人々の思いに達するかもしれない。



楽しかった製本講習会 (平成13年12月13日開催)

たとえ「ライブラリアン」あるいは「図書館」という言葉が死語となつても、母親が温かい肉声で語りかける一瞬、子の心に知の光が宿り輝くという人間の営みが、地上から消えることはないだろう。バイリンガルで子育てを望むお母さんが増えているが、日本語特有の美しい表現や伝統思想も大切に守りたい。日本人の精神生活を長い間支えてきた仏教は、一神教とは異なる思想構造の上に深遠な言語哲学を蔵している。新旧、東西あらゆる人類の智慧をバランスよく取り込むのは至難であるが、情報の渦に足を掬われることなく、子ども達がしっかりとした大人に成長するよう願う。そして私も、古代史に鮮やかな光彩を放つ吉備の地で、有縁の方々に導かれつつ、遅い歩みを重ねてゆきたい。

(うえおか なおこ)

岡山県図書館協会
創立五十周年記念式
平成十三年度岡山県読書大会

岡山県図書館協会創立五十周年の記念式が、平成十三年十月三十一日午前十時から、岡山県総合文化センターホールで、岡山県読書大会と合同で開催された。

まず広江寿彦岡山県図書館協会長が、昭和二十六年の設立以来五十年を迎えるにあたり、公共図書館、大学図書館、私立・専門図書館、研究機関等の施設会員と、これに携わる多くの個人会員の協力と努力に感謝を述べ、この記念式を新たな活動へと挑戦する機縁としたい、とあいさつした。次いで来賓の県教育委員会教育次長・渡辺睦生氏と日本図書館協会理事長・竹内愼氏から祝辞をいただき、開会行事が終了した。

続いて、特別功労者表彰式では、岡山県の図書館や読書活動・出版活動に長年携わり、その発展に尽力された個人、団体合わせて九名に表彰状と記念品が贈呈された。受賞者を代表して秋田征矢雄氏から、図書館草創期から変わらぬ図書館への熱い思いを込めたあいさつがあった。読書大会の表彰式、読書推進運動協議会の伝達表彰式では、県内の図書館で活躍されているボランティア

グループや、図書館の振興に貢献した団体に表彰状、感謝状が贈られた。引き続き、「これからの図書館のめざすもの」と題して、竹内愼氏の記念講演が行われた。言葉のひとつひとつに、豊かな実践と真摯なお人柄が滲み、参加者一同深い共感と感銘を受けた。

午後からは、倉敷朗読研究会による朗読劇「ぼっけえ、きょうてえ」(角川書店刊)などで人気の和気町出身の作家、岩井志麻子氏の特別講演が行われた。

当日は図書館関係者をはじめ約三百五十人の参加があり、盛会のうちを終了した。

岡山県図書館協会特別功労者表彰

受賞者(敬称略)

個人部

秋田 征矢雄

黒崎 義博

団体部

岡山市立中央図書館

倉敷市立中央図書館

金光図書館

岡山理科大学図書館

岡山県子ども文庫連絡会

株式会社ベネッセ

コーポレーション

日本文教出版株式会社

二コース

市立・町立図書館関係

御津町立図書館 幼児コーナーを

新設 電算システムも稼働

(山陽01・1・20)

早島町立図書館が検索システム

インターネットで本探し

(山陽01・3・14)

津山市 市民サービス向上へ6シ

ステムが稼働 市立図書館の蔵書

を検索する「図書館蔵書検索シス

テム」も (山陽01・4・3)

津山市立図書館 仕事援助ボラン

ティアグループ「ごんちゃんクラ

ブ」発足 女性16人が活動へ初研

修 (津山朝日01・5・18)

久米南町図書館 久米南町文化セ

ンター内に5月16日オープン

(山陽01・5・31)

各種サービス機能集約「きらめき

広場・哲西」完成 図書館は三万

八千五百冊の蔵書

(山陽01・10・9)

総社市立図書館ホームページ公開

家庭から検索や予約 県内の図書

館にもリンク(山陽01・12・2)

県立図書館関係

県立図書館 貴重な古絵図パソコ

ン画面で「デジタル画像情報提供

システム導入」

(山陽夕01・4・2)

県立図書館設計概要まとまる 外

観は歴史的景観に調和、メディア

センター設置、情報中核拠点に

(山陽01・4・14)

県内15公立図書館ネットで蔵書検

索できます 県図書館横断検索シ

ステム稼働 (山陽01・5・17)

県立図書館 えっ かばん持ち込

みだめなの?蔵書盗難防止で禁止

に そのかわりロッカーを増設

(山陽夕01・11・2)

開館予定の県立図書館 交通文化

を売り物に 学術書や紀行文、地

図など資料収集始まる

(山陽夕01・11・29)

学校図書館関係

書籍「学校図書館はどうしてつく

られ発展してきたか」ビデオ「本

があつて、人がいてPart2」

完成 (山陽01・6・25)

岡山県学校司書研究協議会津山大

会7月27日開催 「21世紀の学校

図書館から子どもたちへ」をテー

マに (山陽01・7・28)

その他

津山基督教図書館 親しまれた75

年の歴史に幕 4月20日で業務廃

止「記念館(非公開)として運営

(津山朝日01・4・11)

(会場：県総合文化センター)

5・22 全国移動図書館・協力事業

研究会岡山大会実行委員会

(会場：県総合文化センター)

6・5 第一回理事会

(会場：県総合文化センター)

6・11 平成十三年度総会及び平成

十三年度図書館功労者表彰式

受賞者は春名節子、藤井教子、

別府信吾の三氏

(会場：県総合文化センター)

8・9 図書館業務講習会

「新しい図書館員のために」

(会場：県総合文化センター)

8・22 整理技術(初級)講習会

(会場：北ふれあいセンター)

9・2 一日こども図書館フェステ

イバル(共催事業)

(会場：美星町中央公民館)

9・27 全国移動図書館・協力事業

研究会岡山大会運営部会

(会場：県総合文化センター)

10・4~5 第二十三回全国移動図

書館・協力事業研究会岡山

大会(会場：まきび会館)

10・10 第二回企画委員会

(会場：県総合文化センター)

10・31 県図協創立五十周年記念式

・平成十三年度岡山県読書大会

記念講演 竹内愨氏

(日図協理事長)

実践発表 倉敷朗読研究会

特別講演 岩井志麻子氏 (作家)

11・15 パソコン研修会

(会場：県情報教育センター)

12・13 製本講習会

図書の修理を学ぶ・和本の仕

立て方を学ぶ (会場：県立博物館)

事務局から

記念講演の記録も収録した五十周年記念誌を作成する予定です。情報提供のご協力、よろしくお願いたします。

訃報

蜂谷 修一氏
平成十三年八月三十日逝去
享年六十七歳
謹んで御冥福をお祈りいたします。

平成十四年一月十六日
〒七〇〇・〇八一四
岡山市天神町八・五四
岡山県総合文化センター内
岡山県図書館協会
会長 広 江 寿 彦
☎(〇八六)二二四・一二八六
(内二四五)

日誌
5・18 第一回企画委員会